

令和5年度当初予算 ひきこもり支援関連事業（その1）

資料2

「三重県ひきこもり支援推進計画」に基づき、「誰もが社会から孤立することなく、ありのままの自分が認められ、いつでも小休止でき、多様な生き方を選択し、希望をもって安心して暮らせる社会」の実現に向けて、県民の皆さんをはじめ、市町、関係機関、民間支援団体等と連携し、6つの取組方向に基づき、ひきこもり支援に総合的に取り組みます。

情報発信・普及啓発

○フォーラム等の開催【子ども・福祉部】（1,323千円）

ひきこもりに関する正しい理解を促進するため、県民向けのフォーラムに加え、民間事業者等や医療従事者向けのセミナーを開催します。

○ひきこもり講演会の開催【医療保健部】（4,399千円の内数）

ひきこもり当事者・家族・支援者を対象とした、精神保健医療の知見に基づく、深い理解を促進する講演会を実施します。

○SNS等を活用した情報発信【子ども・福祉部】（6,856千円）

ひきこもり当事者や家族等が必要な情報を得られるよう、SNSを活用した「みえひきこもり安心サポートライン」や「検索連動型広告」に取り組みます。また、県HPに、ひきこもり支援ポータルサイトを構築します。

○就職氷河期世代向けSNS等を活用した情報発信【雇用経済部】

（20,214千円の内数）

就職氷河期世代支援策について、SNSを活用したきめ細かな情報発信を行います。

対象者の状況把握・早期対応

○市町における相談支援体制の強化【子ども・福祉部】 （23,659千円）

市町における相談支援機能の充実強化に向けて、圏域別の連携調整会議を開催します。また、新たに支援体制を整備する市町に対して、支援体制の立ち上げを支援する補助制度を創設します。

○義務教育卒業後における途切れのない支援【教育委員会事務局】 （25,772千円の内数）

教育支援センターにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒や保護者の相談への対応や訪問型支援を実施します。

○地域包括支援センター等への働きかけ【医療保健部】（833千円）

高齢者の支援の中で、ひきこもり当事者を把握した際に支援機関につなげられるよう、地域包括支援センター等職員向けの研修を開催します。

○教育相談の実施【教育委員会事務局】（45,755千円の内数）

子どもたちの心の問題の解決に向け、子ども・保護者、教員を対象に臨床心理士を中心に専門的な教育相談を実施します。

家族支援

○家族に寄り添った相談支援【医療保健部】（4,399千円の内数）

三重県ひきこもり地域支援センターにおいて、適切なアセスメントを実施し、当事者の家族への専門相談を行うとともに、家族教室や家族のつどい、虹の会を開催します。

令和5年度当初予算 ひきこもり支援関連事業（その2）

当事者支援

○当事者に寄り添った相談支援、アウトリーチ支援の充実【医療保健部、子ども・福祉部】(41,070千円)

三重県ひきこもり地域支援センターにおいて、当事者への専門相談や多職種連携チームによるアウトリーチ支援を行います。また、三重県生活相談支援センターや精神科病院（3精神保健福祉圏域）において、アウトリーチ支援に取り組みます。

○高校生対象の教育支援センターの設置【教育委員会事務局】(20,994千円の内数)

三重県不登校総合支援センターを設置し、高校段階の不登校生徒、高校中退者を対象に、社会的自立につなげるための支援を行います。

○教育支援センターを核とした不登校支援【同上】(再掲)

不登校支援アドバイザーと教育支援センターに重点配置したSCやSSWが訪問型支援を行います。

社会参加・活躍支援

○ひきこもり当事者の居場所づくり支援【子ども・福祉部】(2,043千円)

ひきこもり当事者の居場所づくりを促進するため、電子居場所の開設や市町等へのアドバイザー派遣を行います。

○子どもの居場所づくり支援【同上】(28,666千円)

子どもの居場所の安定的な運営に向けて、アドバイザー派遣や財政的支援、ニーズとシーズのマッチングを行います。また、協力者の新規開拓に向けて、子ども食堂を開催する飲食店を掘り起こすモデル事業を実施します。

○ひきこもり当事者の体験プログラムの構築【同上】(430千円)

ひきこもり当事者が社会とつながるきっかけとなるよう、スポーツクラブ等と連携した体験プログラムの構築に取り組みます。

○学校外での多様な学びの場の支援【教育委員会事務局】(675千円)

県教育委員会で把握している不登校児童生徒を支援する民間施設（フリースクール等）が実施する体験活動を支援します。

○オンラインを活用した不登校児童生徒の居場所づくり支援【同上】(412千円)

不登校の中高生等を対象に、オンラインを活用した居場所を開設し、多様な活動により、同世代との交流の場づくりを進めます。

○農福連携による農業への就労促進【農林水産部】(1,894千円)

就農体験のノウハウを、関係機関に情報発信し、若者の就労促進の加速化を図ります。また、ひきこもりなどの若者等を対象にインターンシップに取り組み、受入先の農業者を募集・リスト化します。

○多様で柔軟な働き方の推進【雇用経済部】(1,746千円)

働く意欲のある当事者や障がいのある方が自らの能力や適性を生かし希望に応じて働けるよう、短時間雇用や施設外就労等の多様で柔軟な働き方について県内企業への普及を促進します。

○就職氷河期世代向けの就労支援【同上】(再掲)

就職氷河期世代の方を対象に、「みえ就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム」において継続的な取組を推進するとともに、「マイチャレ三重」において、切れ目のない支援を行います。

○地域若者サポートステーション等と連携した就労支援【同上】(5,460千円)

若者無業者の職業的自立を図るため、サポステと連携し、就労体験や各セミナーの開催等に取り組みます。

○夜間学級体験教室「まなみえ」における支援【教育委員会事務局】(15,811千円)

令和7年度の夜間中学の開校に向けて、先行事例の調査研究等や、施設設備の整備に向けた設計を行います。「まなみえ」において、受講生の習熟度に応じた授業を実施します。

令和5年度当初予算 ひきこもり支援関連事業（その3）

多様な担い手の育成・確保

○ひきこもり支援者向け研修会の開催【医療保健部】（再掲）

ひきこもり地域支援センターにおいて、支援者の理解促進や技術向上のためのスキルアップ研修に取り組みます。

○ひきこもり支援ネットワーク会議の開催【医療保健部】（再掲）

令和4年度と異なる視点で、ひきこもり従事者に必要な内容を提供し、連携強化を図るネットワーク会議を県内各地で開催します。

○関係機関への技術支援【医療保健部】（再掲）

ひきこもり地域支援センターにおいて、市町など関係機関への技術指導や助言を行います。

○相談支援包括化推進員の育成支援【子ども・福祉部】（3,361千円）

市町における包括的な支援体制の整備に向けて、「相談支援包括化推進員」を養成する研修を開催します。

○ひきこもりサポーター制度の検討【子ども・福祉部、医療保健部】

「ひきこもりサポーター制度」が実効性のある制度となるよう、市町等と連携し、検討を進めます。

○教育支援センター指導員の育成研修【教育委員会事務局】（498千円の内数）

教育支援センターの指導員を対象に、事例検討を中心とした実践的な資質向上を図る研修を実施します。

参考

○重層的支援体制整備事業交付金【子ども・福祉部】（98,975千円）

地域共生社会の実現に向けて、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、「重層的支援体制整備事業」に取り組む市町に対して交付金を交付します。